

○ 後期計画における各指標の設定（全体指標）

日常の自転車利用を決定づける要因の全体像※1

①前提的な制約

- 地形(坂道等)
- 天候
- 距離
- 自転車の保有
- 自転車運転技術

②利便性・コスト

- 他の交通手段との比較(所要時間, 費用)
- 駐輪施設(交通結節点等)

③安全性(主観+客観)

- 通行空間(怖さ(主観), 事故件数(客観))
- ルール・マナー

④自宅(家庭)・目的地の制約

- 勤務先・学校の条件(制度, 駐輪環境等)
- 家庭の条件(子どもの送迎, 買い物の有無)

⑤心理・規範

- 個人の自転車への肯定感(環境, 健康, 嗜好等)
- 社会の自転車への肯定感(社会的意義・受容性, ルール・マナー等)
- 周囲の自転車利用

赤字: 施策事業により対応可能な要素

日常的な自転車利用を決定づける要因に対応することで
自転車施策に対する市民満足度が向上

シビックプライドの形成による
好循環が生まれる

全体指標

総合的に「自転車のまち宇都宮」だと思う割合(シビックプライド)

前提的な制約のうち, 自転車の保有率向上が期待

自転車施策に対する
市民満足度が向上

実体験
の蓄積

社会規範
の形成

自己
同一化

更なる
自転車利用
(正のスパイラル)

シビックプライド
が形成

自転車利用
(実体験)
の促進

自転車利用の体験が蓄積

自転車利用が社会に
とって当たり前になる

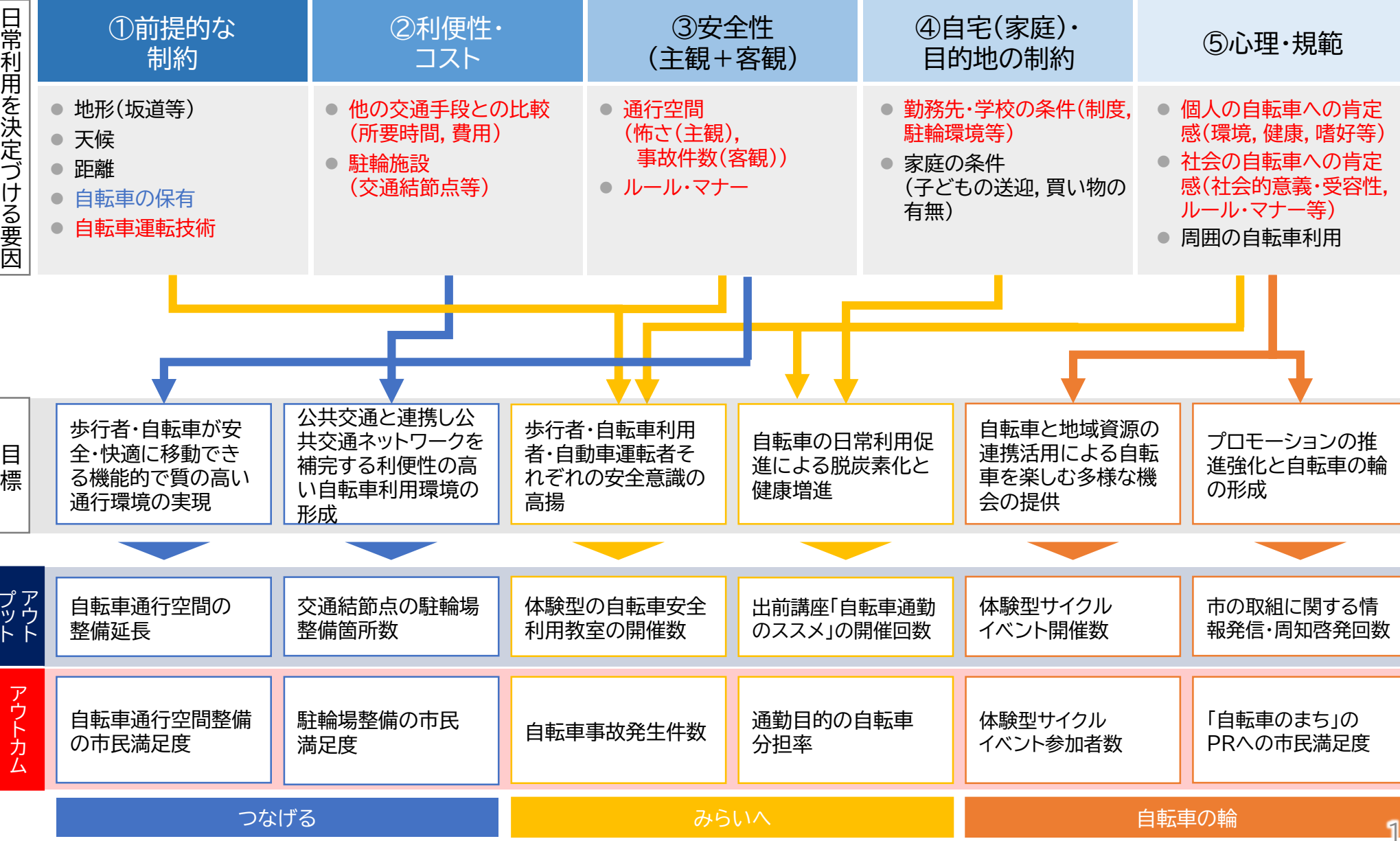
自分の行動(自転車利用)
が「まちの価値」を
体現していると感じる

※1海外の査読研究「Commuting by Bicycle An Overview of the Literature(オランダ・デルフト工科大学, 2010)」および当市の市民アンケート結果(自転車を利用しない理由)より整理

※2都市計画学会の査読論文①である「都市環境はいかにシビックプライドを高めるか～」より整理

○ 後期計画における各指標の設定（柱ごとのアウトプット・アウトカム指標）

赤字: 施策事業により対応可能な要素



○ 後期計画における各指標の設定（全体指標）

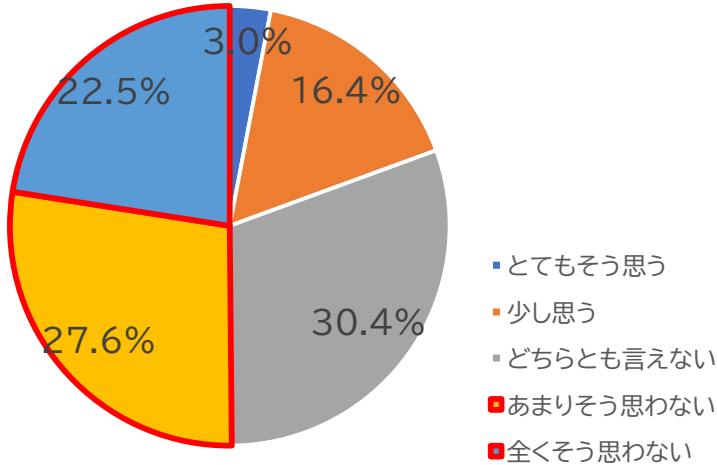
後期計画 全体指標

指標	基準値 (R1)	現状値 (R7)	後期計画 目標値 (R12)	数値設定理由
総合的に宇都宮市は「自転車のまち」だと思う割合	27.2%	19.4%	30%	R1の27.2%からR7の19.4%まで減少していることから、減少分の取り戻しと「どちらとも言えない」の増加分(2.8%)を「少し思う」以上に転換することを目標に設定

市民アンケート調査結果(R1とR7)

▼宇都宮市で推進している自転車のまちに対する評価
総合的に宇都宮市は「自転車のまち」だと思う

	R1	R7
・とてもそう思う	5.7%	3.0% ↓
・少し思う	21.5%	16.4% ↓
・どちらとも言えない	27.6%	30.4% ↑
・あまりそう思わない	26.2%	27.6% ↑
・全くそう思わない	19.0%	22.5% ↑



⇒ 過半数の市民が「自転車のまち宇都宮」だ感じていない

○ 後期計画における各指標の設定（アウトプット・アウトカム指標）

つなげる ～まちづくりを支える自転車利環境整備～

○:アウトプット指標
●:アウトカム指標

目標: 歩行者・自転車が安全・快適に移動できる機能的で質の高い通行環境の実現

関連する施策	指標	現状値 (R7)	現行計画 目標値 (R12)	後期計画 目標値 (R12)	指標設定の考え方	
1. 計画的な自転車 通行空間の整備 2. 自転車ネットワ ーク路線の維持管理	○自転車走行空間の整備延長 (総延長)	93.2 km	123.3 km	123.3 km	自転車ネットワーク計画における優先整備路線の選定基準に 基づき選定した路線の総延長を設定	
	●自転車走行空間整備の 市民満足度	20.0%	36%	36%	トレンド推計 20.6%	R1～R7のトレンド推計値が現行計画よりも下 がるため、現行計画の目標値を継続で設定

目標: 公共交通と連携し公共交通ネットワークを補完する利便性の高い自転車利用環境の形成

関連する施策	指標	現状値 (R7)	現行計画 目標値 (R12)	後期計画 目標値 (R12)	指標設定の考え方		
3. 公共交通との乗 継強化に向けた自転 車利用環境の整備	○交通結節点(鉄道駅, ライト ライン停留場, バス停等)の 駐輪場整備箇所数	72箇所	87箇所	85箇所	現行計画の目標値から, ライトライン停留場付近の駐輪場2 か所※を除いた値で設定		
	●駐輪場整備の市民満足度	26.2%	—	37%	トレンド 推計 27.6%	市民調査 37%	市民調査で「どちらともいえない」と回 答した人のうち1/4程度(自転車利用 者の割合)が, 「少しそう思う」以上とな ることを目標に設定

※東宿郷, 駅東公園前は駅東口駐輪場の利用圏内のため整備対象外としたため

○ 後期計画における各指標の設定（アウトプット・アウトカム指標）

みらいへ ～自転車利用意識の更なる向上～

○:アウトプット指標
●:アウトカム指標

目標: 歩行者・自転車利用者・自動車運転者それぞれの安全意識の高揚

関連する施策	指標	現状値 (R6)	現行計画 目標値 (R12)	後期計画 目標値 (R12)	指標設定の考え方
4. 自転車の交通ルール・マナー等の周知啓発	○体験型の自転車安全利用教室の開催数	115回	—	150回	現在策定中である「第12次宇都宮市交通安全計画」の活動指標を基に設定
	●自転車事故発生件数	372件／年	270件／年	270件／年	現在策定中である「第12次宇都宮市交通安全計画」の目標値と連動

目標: 自転車の日常利用促進による脱炭素化と健康増進

関連する施策	指標	現状値 (R7)	現在計画 目標値 (R12)	後期計画 目標値 (R12)	指標設定の考え方	
6. 自転車通勤などの 日常的な利用の 促進 7. 自転車利用を通 じた市民の環境配 慮行動の促進 8. 自転車を活用し た市民の健康づく りの促進	○出前講座「自転車通勤の ススメ」の開催回数	0～1 件/年	－	12件/年	毎月1回の開催を目標に設定	
	●通勤目的の自転車分担率 ※通勤時の交通手段として 自転車を利用している人の 割合	12.0%	－	20.0%	国計画 20.0%	国の自転車活用推進計画における指標と整合を 図り, 設定

○ 後期計画における各指標の設定（アウトプット・アウトカム指標）

自転車の輪 ～自転車と地域資源の連携による魅力向上～

○:アウトプット指標
●:アウトカム指標

目標: 自転車と地域資源の連携活用による自転車を楽しむ多様な機会の提供

関連する施策	指標	現状値 (R6)	現行計画 目標値 (R12)	後期計画 目標値 (R12)	指標設定の考え方	
9. サイクルスポーツの振興, 10. サイクルツーリズムの推進	○体験型 サイクルイベント開催数	29回	23回	30回	イベント数増加ではなく、ターゲットに合わせたイベントを開催する方向であることから、現状値程度を目標値に設定	
	●体験型 サイクルイベント参加者数	4,737人/年	－	5,000人/年	トレンド推計 5,000人	R1～R7のトレンド推計値を設定

目標: プロモーションの推進強化と自転車の輪の形成

関連する施策	指標	現状値 (R6)	現行計画 目標値 (R12)	後期計画 目標値 (R12)	指標設定の考え方	
11. 「自転車のまち宇都宮」のPR強化	○市の取組に関する情報発信・周知啓発回数	408件/年	195件/年	590件/年	各種講座やイベント等の直接型とホームページや広報紙などの間接型による周知啓発の機会を積み上げた数値を目標値に設定	
	●「自転車のまち」のPRへの市民満足度	16.5%	－	30%	基準値R1 29.1%	R1の29.1%からR7の16.5%と減少してしまったことから、R1と同程度まで回復することを目標値に設定